

Book Reviews

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055303

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



新刊紹介

○ ネイチャーネットワーク企画編集室：自然ウォッチングガイド2 上高地と周辺の山々，同4 尾瀬と周辺の山々 B6変型判，136頁，2000年5月25日，および10月25日，(有)ネイチャーネットワーク(〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-3-15 東京セントラル208)，1,524円(税別)。

ネイチャーネットワークの自然ウォッチングガイドシリーズの出版が始まった。このシリーズは一般的な自然ガイドではなく，上高地とか尾瀬といったように地域を特定し，それらの地域の各ルート沿いに見られる動植物や岩石・鉱物，地形などを詳細な地図と分かりやすい解説を加えてガイドブックにしあげたものである。カラー写真と彩色図を織り交ぜ，章立てはトピック方式，目次に続いてジャンル別の索引を配し，携帯に便利

なように小型の特殊リング製本とするなど，使い安さ分かりやすさをモットーにいろんな工夫がなされている。「上高地」では「上高地周辺」，「奥上高地・徳沢，横尾の谷筋」など9箇所，「尾瀬」では「鳩待峠—山ノ鼻」，「尾瀬ヶ原湿原」など7箇所がガイド対象として取り上げられているし，巻末には山小屋やホテル情報，交通案内もある。これらの箇所をはじめて訪ねる人は，このシリーズを持参すれば便利なことこの上ない。

(清水建美)

○ 斉藤新一郎：木と動物の森づくり 樹木の種子散布作戦 A5判，195頁+索引等11頁，2000年9月25日，八坂書房，2,000円(税別)。

かつて「落葉広葉樹図鑑」を著した著者が，今度は種子散布を主題にした樹木の本を出版された。この本は縦書き2段組み，デス調の実に分かりやすい文章で書かれており，種子や果実や実生など線画(1-119図)がふんだんに使われているのが特徴。写真はカラーも白黒も1枚もないのがユニークである。

この本は「樹木の果実と種子のつくり」，「種子散布の意義と方法」，「動物散布の種類」，「動物散布に対する樹木の対応」，「樹木と散布動物との相互関係」の5章からなる。なかでも第5章は著者の研究成果の結晶ともいえる章である。たとえばミズナラが秋には根だけ伸ばして上胚軸休眠を行うのは春の本葉の持ち上げが早くでき光合成が早くスタートできるからとの主張，道路法面に生育するハイマツの実生が積雪がうすく滑落しやすい上縁に限られるのは雪解けが最も早く，ホシガラスの掘り出しが容易な場所であるからといった見方など，いくつもの独創的な見解がちりばめられていてなるほどとうなずかされる。特記すべきことは，この本は動物サイドからというより樹木サイドからみた動物による種子散布，つまり，「樹木たちが動物の好みを利用し，動物の数のコントロールさえしてきた」という視点に立って書かれていることである。

(清水建美)

○ 工藤 岳：大雪山のお花畑が語ること—高山植物と雪溪の生態学 生態学ライブラリー10 A5変形判，232頁，2000年8月18日，京都大学学術出版会，2,100円(税別)。

「石の上にも三年」というが，気づいてみたら「山の上にも十三年」が過ぎてしまった。その歳月を自分なりに整理してみた結果がこの本である。著者は「おわりに」の冒頭で，こう綴っている。本書は，北海道大雪山をフィールドに，詳細な観察と鋭い洞察力から高山植物の生態を紹介した力作である。同時に，高山植物を対象とした生態学に，著者が一から取りかかり，そして数々の論文としてまとめ，また新たなテーマにチャレンジしていくという，研究者の奮闘記でもある。自然の謎解きの面白さと難しさがとても素直に伝わってくる一冊である。高山に積もる雪。それは，ある時は植物を極度の低温から保護するが，またある時は，生育期間を著しく減少させる。雪解け時期の違いによって，花粉媒介昆虫の訪花頻度も異なる。高山生態系において，雪溪が直接的・間接的につくり出す非生物的・生物的環境は，高山植物の多様な生き方と巧みな適応を導き出している。山を歩きながら今まで何気なく見ていた高山植物を，このような観点から観察してみれば，また違った楽しみが増えるに違いない。山や自然の好きな一般の方々から学生や研究者まで，多くの人に是非読んでもらいたい一冊である。

(和田直也)

○ 白岩卓巳：絶滅危惧植物 水生シダは生きる A5判，254頁，2000年10月24日，自費出版，4,000円。永く小学校の教諭をされた著者が，30年以上にわたる水生シダの研究の総まとめの本である。

本書は，サンショウモ(ぼんとうにシダか)，オオアカウキクサ(変幻自在なシダである)，デンジソウ(絶滅を急ぐのか幸せのクローバー)，ミズニラ(水中の静かな世界に生きるのか)，ミズワラビ(一年草として生きぬく)，はるかな旅(水ときれいな水生シダ)の6章からなる。内容は形態，形態形成，解剖，生活，繁殖，分布，分類と多義にわたっている。92頁もの，幼植物，気孔，胞子のう，胞子，維管束など細部を写したカラー写真がある。デンジソウの葉の開閉を時間とともに観察した記録，ミズニラの冬の塊茎，ミズワラビの栄

養葉と胞子葉の長さの違いなど、著者の野外での観察記録が随所に見られる。研究室や実験室で学ぶことが多くなり、野外で学ぶことが少なくなった昨今、あらためて自然から学ぶことの重要性を教えられた。

申し込みは著者宛（〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-7 21-507 TEL, FAX 078-821-4615）（鳴橋直弘）

○ 佐藤 卓：スイスアルプスの植物 A5判, 80頁, 2000年11月1日, 自費出版, 1,200円（送料込み）。

本書は、スイスアルプスに生育する代表的な高山植物 114 種をカラー写真で示したものである。

スイスアルプスの植生帯の垂直分布、亜恒雪帯の植物、高山帯の植物、亜高山帯の植物、スイスアルプスと日本の高山植物相の比較の 5 章からなり、それぞれの章には簡単な説明がある。ウメバチソウ、キバナノコマノツメ、コケモモ、ホソバウキミクリ、ヤナギランなど日本にもある植物もあるが、ほとんどは日本では見られない植物である。同定は地元の学者の協力を得たという。写真は鮮明で、撮るアングルもよく、十分楽しめる本である。

申し込みは著者宛（〒939-3553 富山市的場 195 TEL 076-478-2931）

（鳴橋直弘）

○ 山口県植物研究会（編）：山口県の巨樹資料 植物調査の歩み A5判, 236頁, 2000年11月8日, 山口県植物研究会, 1,800円。

この本は、前後 2 つの部分からなり、前半は山口県の巨樹資料（種類別の県内の巨樹の測定資料）、後半は植物調査の歩み（県内を中心にした植物記録）である。全く関係のないものが合わさったように思えるが、実はどちらも岡国夫先生の山口県の植物研究の基礎的資料である。

本書は、岡国夫先生の 3 周年忌を記念して、山口県植物研究会が編集したものである。先生は 1946 年よりお亡くなりになられる前年の 1998 年まで、山口県を隈無く歩かれ、地方植物誌の出発であり基準となった有名な山口県植物誌（1972）を出版されるなど、山口県の植物研究の中心的存在だった人である。前半は県内の巨樹を種類別に分け、場所名、大きさ、備考、測定年月、測定者、及び天然記念物の指定があるかどうかを記したものである。後半は先生の標本目録のノート 10 数冊から抽出された採集日ごとの植物名の記録である。最後に、先生の略歴、業績、著書、報文目録、岡先生を記念して付けられた植物名や先生が名付けられた植物名などが追加されている。山口県の巨樹、植物、研究史、岡国夫先生自身に興味をお持ちの人には本書をお勧めしたい。購入は、里山自然誌の会 〒753-0024 山口市金古曾町 8-3 三宅貞敏氏に申し込めばよい。

（鳴橋直弘）

○ Hickey, M. and King, C.: *The Cambridge Illustrated Glossary of Botanical Terms* A4, 207 pp. 2000. Cambridge Univ. Press. Paperback. ca. 5,000 Yen.

この本は、植物の形態学で使用される学術用語の説明とそれをペン画で示したものである。6 年前に出版された Harris J.G. and Harris, M. の *Woelf Harris Plant Identification Terminology-An Illustrated Glossary* に類似した本であるが、それに比べて、図の数は多くはないが、大きくて分かりやすい。根、葉、毛、果実等、項目別に図示されていて、便利である。また、貯蔵器官、栄養繁殖、発芽、生活形、葉のつき方やたまため方、及び数種の花や果実の構造が載っているのも特徴である。

形態の用語を調べるのに、朝比奈泰彦・清水藤太郎の「植物薬物・学名典範」（春陽堂）、佐竹義輔の「植物の分類」（第一法規出版）、牧野富太郎の「新日本植物図鑑」（北隆館）、や Stearn, W.R. の「*Botanical Latin*」を参考にされてきた人も多いと思われる。これらはいずれも一長一短があった。ここで紹介する本は、植物形態学の用語を理解する上で、初心者には便利な本と思われる。

（鳴橋直弘）